

こころ豊かな人づくり神戸 500 人委員会 教養講座

(公財)兵庫県身体障害者福祉協会 出前講座 (事務局宮本氏) 2021 年 12 月 13 日(月)

## 「みんなの声かけ運動」

車椅子ユーザーから見た社会

講師：久保 秀男

講話の順序が後先になりますが久保講師のお話で印象に残ったことを書きます。

町で車椅子の人が困っているのを見かけたら、皆さんはどうしますか？

との問いかけがありました。



「何かお手伝いすることがありませんか？」 困っている人がいたら、まずはその一言を！

断られても気分を害さないように！・・・自立しようとしている人もいることを理解してください。

### ○みんなの声掛け運動

：自立をどう助けていくか？

：声をかけた、相手の気持ちをどう感じるか？

：「自分の生活を守るための思いを大切にする障害者はたくさんいます。これらを理解し応援してほしい。」との言葉を改めて、深くとらえる事が出来ました。

：ハンデをどう見るか？（バックボーン）どれだけつらい思いをしているかを理解してほしい。

：自立を社会としてどう守っていくのか？

久保氏の自己紹介の一部

18 歳高校生の時に、バイクの事故で頸椎損傷

体の中の状態がわからないので、救急搬送された時の処置のはなし（安静にしておかないといけないのに、色々な動きをさせていたらしい）医療体制が整っていなかったのかと、私は、事故時の処置に疑問を感じた。（娘で体験、医者処置がよく車椅子は免れ今日に至っている。感謝を改めて！）

足が動かない・・・移動手段は、手動装置付きの車で移動

日常生活の中、外出時に不便と覚えることが沢山あります。

特に、トイレ・駐車場の問題等・・・健常者のちょっとした気使いで解消するのだが、とお話がありました。障害者の日常生活のバリア：物理的バリア・制度的バリア・文化的バリア・意識的バリア（私達に大きくかかわる事だろうと感じました。）

障害を持つ方々への理解、これは沢山の種類があると思いますので難しいと思いました（どんな障害があっても日常生活をされている方々への理解はもちろん必要と考えますが、とても大変です。それらを少しでも解決する方法が「何かお手伝いすることがありませんか？」と感じるお話でした。

久保氏は車椅子ラグビーで活躍され、ヨーロッパ遠征の経験もあるとお話でした。そこで体験し思ったことはヨーロッパでは、障害者の介助は文化として根付いているとお話でした。

最近、両手だけの生活なので困ったことの一例として歩道で車椅子がつかず車いすから放り出されたお話がありましたが、車いすから放り出されると全く何もできない状態になります。人が通るのが救いになるが、その時は長いこと人が通らなくて大変だったなどの話から、

車椅子障害者と視覚障害者との違い(健常者よりも沢山の障害になることがままする。)

### 車いすユーザーの困りごととして

- ・点字ブロックは車椅子が通ると振動がある。
- ・障害所用の駐車場のコーン、降りるのが大変なのに降りて、コーンをのけて又乗り込まなければならない。
- ・トイレ（障害者用のものでも使えない所がある）
- ・歩道は、雨水を流すために、斜めに作られているので車椅子は進行しにくい。
- ・スーパーの通路荷物が置かれていると通れない、高い所のものが取れない(私たちはお手伝いできる)

**○障害者は声を出す勇気を持つものは少ない。(私たちの声掛けが必要)**

・海外では、障害者への声掛けは文化と思われる。

○ユニバーサル社会を兵庫県は目指している。  
多様な人々が共生する社会

質問をさせていただきました。

災害時の孤立化を防ぐために、地域に自己開示が必要ではないのか？  
久保氏より課題だと考えているとの答えでしたが、これらも私たちの声  
掛け運動が、大きな力を持っているのではと感じました。

記 10期 黒谷静佳

